

◎特集1

まちなみウォッチング

おかやの「いいね!」を見つけてみよう。

ふと訪れた場所や旅先で、こんなところに暮らしてみたい…と思ったことはありませんか？
地域の雰囲気は、目に映る景色だけでなく、人の暮らし方や価値観によって醸成されるもの。水の流れる音や風が運ぶにおい、その感触など、すべての感覚もまた、時間や空間に織り込まれて、風土や文化を育んでいきます。

鮮やかな季節の彩り、洗練や歴史の香るたずまい…訪れるわたしたちを、包みこむようなやさしさで迎えてくれるまちは、住まう人に長く愛され続けているまち。心に響く景観は、生活や人の温もりを、そっと映し出しているものです。

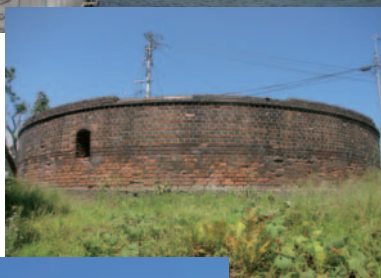
岡谷のまちはどうですか。いいなと思う場所、ほつとする場所が近くにありますか。今月は、愛着と誇りの持てるふるさとづくりへの第一歩として、わたしたちの暮らすまちを眺め、身近な景観について考えてみたいと思います。

岡谷のまちが好きですか？

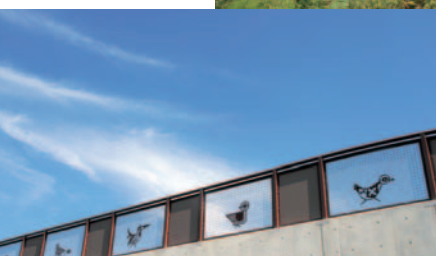
富士山や八ヶ岳の美しい眺望、豊かに水を湛^{たた}える諏訪湖周辺のゆつたりとした風景。カエルの合唱が聞こえてくる田んぼ、小さな野の花が揺れるあぜ道、涼しい瀬音を響かせる小溪や、古墳、神社、寺、大木など、懐かしさに通じる里の景色。自然、歴史文化、市街地、生活が織りなす心象風景：岡谷のまちの表情を、あなたはどのくらい知っていますか。そしてどのくらい、それらに愛着を持っていますか。ふだん、通り過ぎるだけの景色も、じっくり歩いて眺めてみると、まるで違った印象。驚くほど新鮮で、さまざまな発見が待っています。まずは、家のまわりから、少し探検してみませんか。



釜口水門からの風景



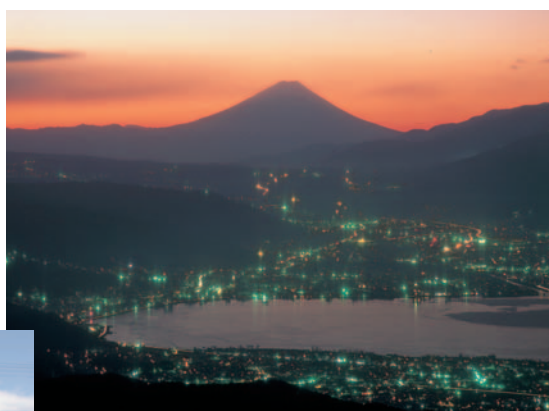
丸山タンク



武井武雄の意匠が取り入れられた丸山橋の欄干



船魂神社のしだれ桜



夜明けの富士山と諏訪湖



常現寺沢公園



夏明の田園風景

歩いてみる、感じてみる。

まちなみ形成の気運が高まっています。景観ワークシヨップはもちろん、ウォーキングイベントである「あるき太郎」も、ふるさとの自然や歴史にふれ、おかやの魅力を再発見しよう、と開催されています。

岡谷南部中学校では昨年、総合

的な学習の時間を利用して「景観学習」が行われました。独自の企画で市内を散策し、景観マップを作成するなどの活動をしている団体、緑化活動や花壇づくりに取り組む地域、まちなみに即した美しい個人宅など、市民の意識もまた、少しずつ「良好な景観の保全と新たな景観の創造」に向かっていくように思います。

生活の息づかいや地域の個性に気づき、ふっと心が豊かになるとき、このまちで暮らすことの意味や価値が見えてくるのかもしれない。

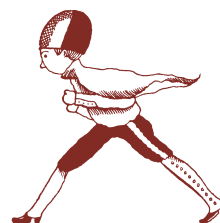
懐かしさや温かさに通じる資源を大切に思う気持ち、ふるさとを良くしたいと思う心は、誰にもあります。身近なくらしのなかで、まちの表情の豊かさに目を向けること、景観を意識してやさしい気持ちになること、とにかく歩いてみるなど、まずは、心の目を開いて、あなたも始めてみませんか。



南部中の景観学習。市内を建築士と一緒に歩き、どのような街づくりがされているかを調べる



家の周りに花を飾っている個人宅



始まっています、市民目線の活動

地域コミュニケーションが景観づくりを推進中。
活動の一部を紹介します。

岡谷景観を考える会

中野 裕剛さん



「景観サポーター」という組織を立ち上げたのが平成17年。現在のかたちになって、会員も40名ほどに増えています。活動は、自分の住んで

いる家のまわりや地域に重点を置く「まちあるき」。フィールドワークの成果は、トレッキングマップの制作（年3、4回）に反映し、「岡谷市景観マップ」として、市民新聞にも提供させていただいています。身近なところにある新しい景観に気づくことで、日常の生活が変わってくるんですよ。それは、生活の質を高めることにもつながると思います。これからは、景観を発掘し守るだけではなく、創ることも重要になります。探索や研究、交流を通じて、景観形成の提案につなげるなど、活発な活動をしていきたいと思っています。」



丸山橋線沿道まちづくり協定協議会

武居 永作さん



「県の景観条例に基づいて、平成11年に、景観形成住民協定が結ばれ、インターや国道20号線から、岡谷の市街地に通じるこの丸山橋線沿道を、

緑あふれる潤いのまちにしようと協議会が発足しました。プラントターの設置は、当初の県の補助金によって実現できたのですが、その後は市の支援もいただき、沿道住民の自発的な活動として続けています。春にはビオラ、夏から秋にはペゴニア：統一された可憐な花が連なる沿道のプラントーは、現在131個になりました。歩道の清掃や街路樹の手入れなどにも活動の幅は広がってきています。が、夢は、インターから諏訪湖まで、プラントーがつながること。広い場所には、ベンチを置くなどして、住民が和める場所に、景観的価値を高めようという目標。」



岡谷南部中学校の景観学習

景観への意識啓発を目的に、景観デザイナーによる講義を受けてまちあるきを実施。ワークショップでは、魅力に加えたいもの、だいたいにしたもの、などの書き出しから始めて、「20年後のおかや」のイメージを作成しました。

まちづくりの専門家を招き、岡谷のまちの良い点や問題点を出し合うワークショップを実施



ワークショップで出された意見や、まちあるきで感じたことをもとに、岡谷の未来のまちを実際に絵や図面にしてみる



作成した絵や図面を学園祭で発表

景観は暮らす人の姿勢や価値観を映す鏡



景観写真コンテスト 作品募集!

岡谷のまちなみを、お手持ちのカメラで撮影してみませんか？季節感あふれるふるさとの自然、重厚感あふれる近代化産業遺産や建造物、祭りの風景、わが家のガーデニング、くらしのなかのスナップなど…市内の景観資

源を、自由なあなたの目線で切り取ってください。

応募作品は、広報などで定期的に紹介していく予定です。

応募方法：都市計画課窓口にて受け付けます。詳細は募集要項でご確認ください（都市計画課窓口で配布）。市ホームページにも掲載しています。

応募締切：平成23年1月31日（月）

美しい景観を次世代に

かつての日本には、景観を守る体系的な法律がなく、断片的な保護の編み目をくぐる開発によって、美しい自然や伝統ある景観が、次々に姿を消していました。まちの価値が質的向上にシフトする時代に、景観法は、そうした法律の不備を補い、「美しく風格のある国土の形成」「潤いのある豊かな生活環境の創造」「個性的で活力ある地域社会の実現」などを目的として、平成16年に制定されました。それを受け、それぞれの自治体レベルで、地域にあった独自の景観



行政が行えることとなりました。岡谷市でも、市民協働による「景観まちづくり」への取り組みを開始し、平成21年には、「岡谷市景観形成基本計画」と「住まい・街並み形成マニュアル」を作成しました。

今後は、住民の意見を反映し、良好な景観を形成する計画である「景観計画」を定め、岡谷市の個性や特徴を活かした魅力ある景観まちづくりを進めていくこととしています。

魅力ある美しい景観を大切な財産として、将来に継承していくためには、わたしたち一人ひとりが、身近なまちなみに愛着と誇りを持ち、だいにしていかななくてはなりません。

身近な景観を考えることは、まちの景観を考えること。より良い景観づくりを、住み心地のよい快適で潤いのあるまちづくりにつなげていきましょう。



「住まい・街並み形成マニュアル」
都市計画課で無料配布しています

問合せ ● 都市計画課（内線1372）